

第1学年国語科学習指導案

1、単元名

1の1 おてがみプロジェクト ～じぶんのあさがおに「ぴったりのことば」をみつけて、かこう～
教材：『しらせたいな、見せたいな』『てがみをかこう』（光村図書1年）

2、単元の目標

（1）国語科としての目標

○朝顔の観察を通して発見したことの中から、自分の知らせたいことを決めて、分かりやすく伝えることができる。

○主語と述語の関係や、「は」「を」の使い方に注意しながら、敬体で書くことができる。

（2）汎用的スキル

○朝顔の葉や茎を、よく見たり、手で触って確かめたりしながら、感じたことや思ったことを言葉で表すことができる。（完成・表現・創造の力）

（3）態度・価値

○詳しく観察して発見したことや気付いたことを、手紙に書くことを通して、自分で育てている朝顔への愛着を、より深めることができる。（愛する心）

3、児童の実態

本学級の児童たちは、自分の知っていることや見つけたことを、友だちや教師に伝えたいという思いが非常に強い。特に、平仮名指導や片仮名指導の時間においては、その時間に学習した文字を使って、自分の知っている言葉や作文を発表することが好きである。友達が発表した言葉や作文を、ノートに書き写すことにも意欲的な児童が多い。また、生活科で取り組んでいる朝顔の観察では、主に絵や短い言葉で自分の気づきを記録している。教室でその日の気づきを共有すると、友達の気づきや表現に共感したり違いを見つけたりして、「○○さんと似ていて」、「私はちょっと違って」などの前置きをつけて自分の気づきを発表する姿が、増えてきている。

しかし、日記や作文の内容は、「～しました。」、「～がたのしかったです。」など、したことや出来事の簡単な紹介が多い。

本単元では、朝顔の観察で得た気づきと、そこから感じたことや自分の思いを、友達や家族に手紙で伝える活動を通して、児童が言葉と向き合い、より豊かな言語感覚を育んでいけるよう支援していく。

4、単元について

①教科から見た特性

『しらせたいな、見せたいな』『てがみをかこう』を組み合わせ、自分が大切に育てている朝顔の素敵などところを見つけ、そのよさを表す言葉を見つけて手紙に書く言語活動を設定した。教材の一つ、『しらせたいな、見せたいな』は、児童が自分の生活の中から「知らせたい」「見せたい」と思う事柄を見つけて、簡単な絵と短い文で表現する。この題材を、本学級の児童たちが今、一番、興味・関心のある朝顔に設定した。さらに、観察して気付いたことを知らせる相手を、両親や同級生以外の、遠方の祖父母や親戚、他校の友達などを思い浮かべさせることで、児童の「知らせたい」という思いを高めるとともに、手紙を書く必然性をもたせた。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

朝顔の様子をよく見たり、触ったりして感じたことや思ったことを記録させた。そして自分の朝顔に「ぴったりのことば」を考えて書く時間を設定した。その際、自分だけで考えるのではなく、友達の気づきや発見、それらを表す言葉を共有する場を設けた。自分と友達の、感じ方や表現の仕方の違いや相違点に気付くことで、一人一人が、自分の朝顔の素敵などところを感じたり表現したりする力を育めると考えた。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全8時間＋生活科での朝顔観察適宜 本時6／8時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (3時間)	・朝顔の観察を行い、葉や茎などの様子を絵や言葉で表現する。（生活科） ・一人一人の朝顔の素敵などところを表す言葉を共有する。 ・朝顔への思いが伝わる手紙を書くことを共有する。	○愛する心 ○感性・表現・創造の力	○身近なテーマの設定 ○他者との学び合いの設定
第2次 (5時間)	・自分の朝顔に「ぴったりのことば」で、文を作る。 ・書いた文を友達と読み合い、お互いのよさを見つけたり、朝顔を表現する言葉を共有したりする。 ・自分の朝顔に「ぴったりのことば」を使い、感じたことや自分の思いを加えて手紙を書く。	○伝える力 ○他者に対する需要・共感・敬意 ○感性・表現・創造の力	○他者との学び合いの設定

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・文を書くときの約束に気をつけながら、自分の朝顔の様子を表す「ぴったりのことば」を使って、文を作る。
- ・友達と文を読み合い、アドバイスやよいところを見つけて伝えたり、自分の作った文を見直したりする。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	じぶんのあさがおに「ぴったりのことば」で、ぶんをつくろう。 ○これまでにいった朝顔の観察で、葉や茎、つるの色や形、手触りや大きさを言葉でどのように表現したかを、掲示を見ながら確認する。 ・○○さんの葉っぱは、犬の顔のような形と書いてある。 ・私も○○さんも、茎の下は紫で、上の方は緑色と気付いたよ。 ・私の葉っぱは、シャリシャリした手触りだった！	◇朝顔への気付きや、気付きを表現した言葉を、教室に掲示しておくことで、それまでの学びをいつでも振り返ることができるようにする。 (可視化ツールの用意)
展開 30分	○自分の朝顔にぴったりの言葉で、文を作る。(下書き) ・「つるつる」という言葉を使って、「私の葉っぱは、つるつるしています。」と書こう。 ・「ふわふわ」と、「さらさら」のどちらにしようかな。 ・ぼくの朝顔は、ぼくの背の高さより高いから、「ぼくより、10センチたかいです。」と書こう。 ・ぼくの朝顔は、茎の下の方が、「エメラルドいろ」だったな。 ○自由に友達と文を読み合い、アドバイスや、よいところを見つけて伝える。 ・ここは、「わ」じゃなくて「は」と書くよ。 ・「ちくちくと、とげとげのあいだ」か、なるほど！「あいだ」を真似してもいい？ ・きみの背より「10センチ高い」って、分かりやすいね。僕の朝顔は、胸ぐらいの高さなんだよ。 ・「シャリシャリの手触り」が、私の朝顔と一緒にだね。 ○自席に戻り、もう一度、自分の書いた文を見直す。 ・ここに、「。」を書き忘れていたな。 ・「ふわふわ」を、「すこしふわふわ」にしよう。 ・葉っぱの表のことだけでなく、裏のことも書き足そう。	◇掲示や、朝顔の観察シートを見ながら、「ぴったりのことば」を探せるようにする。 (：愛する心、伝える力) ◇掲示にある友達の言葉も、参考にしてよいことを伝える。 (：他者に対する受容・共感・敬意) ◇主語と述語の関係、はじめのひとマスを空けること、「は」「を」を正しく使うこと、句読点に注意すること(文を書くときの約束)を全員で確認し、板書しておく。 ◇机間指導し、朝顔の様子から考えたことや自分の思いを書き加えている児童を見つけておき、全体共有の場で紹介し、価値づける。 (他者との学び合いの設定 ：他者に対する受容・共感・敬意) ◇友達のアドバイスや感想を聞いて、書き直す場を設定する。 (試行錯誤が可能な場の設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◆友達とアドバイスや感想を伝え合いながら、自分の朝顔に「ぴったりのことば」を見つけ、文を作っている。 (観察・ワークシート)
結末 8分	○自分の作った文や、「いいな」と思った友達の文や言葉を発表し、そのよさを振り返る。 ・私は、「はっぱのうらが、すこしちくちくしていて、くすぐったいです。」と書きました。 ・○○くんは、「はやくはながさいてほしいです。」と書いていて、私も真似したいなと思いました。 ○次時以降は、本時の下書きを完成させ、自分の考えや思いを加えながら手紙を書くことを確認する。	◇自分の考えや思いを加えて文を作っていた児童を紹介し価値づけることで、朝顔への思いが伝わってくる手紙を書くことへの意欲を高める。 (振り返る場の設定 ：他者に対する受容・共感・敬意)

●記録映像 無し